


## 会派視察研修計画書

令和元年 7 月 4 日

碧南市議会議長 様

会派名

代表者名 林 田 要  印

下記のとおり、視察（研修）を計画したので届け出ます。

参加議員	林田 要、生田綱夫、山中謙治、小林晃三、鈴木良和、 鈴木清貴、杉浦哲也、沓名 宏		
日 時	令和元年 7 月 1 4 日（日）～令和元年 7 月 1 6 日（火）		
視 察 先	1 宮城県立美術館（仙台市） 2 宮城県塩竈市		
研 修 内 容	1 美術館の収蔵庫について 2 (1) 塩竈市観光物産協会の取組について 2 (2) 震災復興の取組み状況について		
日 程	7 月 1 4 日（日）仙台市 午後 2 時から午後 3 時 3 0 分 7 月 1 5 日（月）宮城県塩竈市 午前 9 時 3 0 分から午後 3 時 3 0 分 7 月 1 6 日（火）宮城県塩竈市 午後 1 時から午後 3 時		
交 通 手 段	<input type="checkbox"/> 公共交通機関 （電車・新幹線）	<input type="checkbox"/> 公共交通機関 （飛行機）	<input type="checkbox"/> 自家用車

※該当するものにチェック☑してください

## 会派視察研修報告書

令和元年 8 月 26 日

碧南市議会議長 様

会派名 新政会

代表者名 林田 要 印

下記のとおり、視察（研修）を実施したので報告します。

なお、参加者議員 8 名分の視察研修報告書を添付いたします。

参加議員	沓名 宏、杉浦哲也、林田 要、鈴木清貴、 小林晃三、生田綱夫、鈴木良和、山中謙治
日 時	令和元年 7 月 14 日（日）～令和元年 7 月 16 日（火）
視 察 先	宮城県 仙台市 宮城県 塩竈市 宮城県 女川町・石巻市
研 修 内 容	仙台市 宮城県美術館の収蔵庫について 塩竈市 塩竈観光物産協会の取り組みについて 塩竈市津波防災センターの震災復興取り組み状況について 女川町、石巻市の復興状況視察
日 程	7 月 14 日（日） 仙台市 7 月 15 日（月） 塩竈市 7 月 16 日（火） 塩竈市
備 考	

※ 相手方から收受した資料の写しを添付してください。

## 視察研修成果報告書

令和元年 8 月 23 日

議員氏名 林田 要 印

視察（研修）に参加したので、下記のとおり成果を報告します。

### 記

- 1 期 間 令和元年 7 月 14 日（日）～令和元年 7 月 16 日（火）
- 2 視察先 宮城県仙台市、塩竈市
- 3 視察の種類 会派行政視察研修
- 4 視察の成果等

#### 1・宮城県仙台市「宮城県立美術館収蔵庫」について

昭和 56 年に開館、収蔵品数は絵画 500 点、日本画 260 点余を含め、全 7000 点を超える。年間予算は 5 億円弱とのこと。碧南市においても課題となっている作品の収蔵について、リニューアル計画の中で「見える収蔵庫」を前提とした設計を考えており、規模は違えど碧南市でも同様に市民の目に触れる機会を増やす努力はすべきであり、その結果として碧南市の歴史や文化に触れる機会の創出は市民満足度につながるであろう。

#### 2・宮城県塩竈市「塩竈観光物産協会の取り組み」について

宮城県有数の漁港をもつ塩竈市における観光物産協会の取り組みは先進事例が豊富であり、その内、碧南市でも応用可能な内容について学んだ。特筆すべきは、戦後より始めた神社を中心とした港祭りがあり、県内外より多くの観光客を取り込んでおり、リピーターも多いという。また海外からの観光客に対応すべく 4ヶ国語の web サイトや店マップを用意し、市全体を魅せる工夫が随所に見られた点は、碧南市でも早急に取り組むべきものであると考える。

#### 3・宮城県塩竈市「塩竈市津波防災センター」について

東日本大震災時には、多分にもれず津波の被害を受けており、その際の記録と記憶を後世に伝える工夫の一つとして、塩竈港に設置されている。特筆すべきは発震前後の様子と対応を中心として、映像を豊富に取り扱った記録を公開しており、今後の防災・減災に積極的に全市的に取り組む姿勢が前面に出ていた。このように文字や数字、画像だけでなく、リアルな映像を中心とすることで臨場感を出し、当事者意識を後年まで伝える工夫について、碧南市民も防災教育の一環として取り入れるべきであると考えます。



## 視察研修成果報告書

令和元年 7月30日

議員氏名 小林 晃三 印

視察（研修）に参加したので、下記のとおり成果を報告します。

### 記

- 1 期間 令和元年 7月14日（日）～令和元年 7月16日（水）
- 2 視察先 宮城県仙台市、塩釜市、女川町、石巻市
- 3 視察の種類 新政会 会派視察研修
- 4 視察の成果等

7月14日（日） 宮城県仙台市「宮城県美術館収蔵庫について」  
宮城県美術館の概要

宮城県美術館は、美術の鑑賞、創作、研究等を通じて、県民が美術文化活動に積極的に参加できるよう、多角的な機能を持つ総合美術センターの役割を果たす施設として設置された。

昭和56年11月開館、佐藤忠良記念館は平成2年6月開館。

収蔵品数は、絵画501点、日本画264点、素描2,549点、版画2,087点、彫刻821点、工芸70点、写真445点、絵本原画548点、合計で7,285点。  
「見える収蔵庫について」

展示している収蔵物は全体の10%程度であり、より多くの作品を見ていただくためにバックヤードの収蔵品も見えるように「見える収蔵庫」の導入を検討している。

開館から35年が経過し、施設老朽化が課題となっており、平成29年3月に「宮城県美術館リニューアル基本構想」を策定している。

### 所感：

宮城県立美術館は碧南市の藤井達吉美術館と違い、当初から美術館として設計されているので、展示スペースや収蔵庫・作業スペースに比較にならないほど余裕がある。立地にしても緑地の中に大きな駐車場もそなえていて来場者に配慮した設計であった。碧南市の美術館と県営の宮城県美術館を純粹に比較はできないが、展示方法や、より多くの収蔵品の観覧ができるように本市の美術館も様々な検討をしていただきたい。また、収蔵庫の増設についても限られたスペースを有効に使い、「収蔵庫の見える化」も検討課題だと感じました。

7月15日（月） 宮城県塩竈市 塩竈観光物産協会の取り組みについて

塩竈市は古くから海の玄関口として発展をし、塩竈神社の門前町としても繁栄をしてきた。近年は人口の減少が課題となっており、人口減少に歯止めをかけるために産業振興と観光事業に力を注いでいる。本塩釜駅の構内に塩竈市観光物産協会案内所があり、観光客に観光案内と共に地域物産のPRを行っている。

塩がマップ、仲卸マップ、老舗マップ、塩竈寿司めぐりなどのパンフレットがあり、市内観光、グルメ、地域産業などを紹介している。

観光の取り組みとしては、日本三大船祭りと呼ばれる鹽竈神社みなと祭りがあり、御座船が松島湾内を巡り、併せて観光船も出している。前夜祭では湾内にて花火大会が催され港や船上から見学できる。

所感：塩竈市は歴史も古く、豊富な海産物を使った観光、グルメに力を入れている、碧南市も港町であり参考にできると思う。碧南市でも衣浦みなと祭りや、元気ッスへきなんなどの大きなお祭りはあるが、碧南市単独で行うにも限界があり、高浜市や半田市、西尾市など近隣の市町村との連携も進めていく検討をしても良いのではないかと感じる。人口減少時代の新しい価値観の創造が課題となってきている。

7月16日（火） 塩竈市津波防災センターの震災復興の取り組みについて

2011年3月11日に発災した「東日本大震災」について塩竈市津波防災センターでは発災後7日間に焦点をあて、何が起きて、どのように推移していったかをその日ごとの映像や、写真、避難所の状況などを克明に記録、展示している。塩竈市においては松島湾にある多くの島が防波堤の役割をはたし他地区と比較して津波被害は大きくなかったが、それでも浸水・液状化の被害はあった。震災前には4,000人分の毛布の備蓄があったが避難者はそれを上回る8,000人を超えていた。

所感：

「その時何が起こったのか」を忘れないために、被災者にとってはつらくて、悲しい震災の記憶を次の世代に伝えるために、また、同じような震災があった時に役立てるように映像と写真でわかりやすく展示がしてあった。

今いる場所が実際の震災時にどうなっていたのかが映像によってはっきりと自覚できることは大きな震災を経験していない私のようなものには、言葉で伝えるよりよほど説得力があると感じました。碧南市においても震災はいつ起きてもおかしくないといわれ続けてきましたが、「その時」に備えて、震災の疑似体験の機会を市民にも提供できると良いと感じました。

7月16日(火) 震災復興現地視察 女川町・石巻市

2011年3月11日東日本大震災では女川町や石巻市などの臨海部は津波による甚大な被害を受けた。

海寄りのまちや、公共交通機関まで破壊され、震災から8年が経過した現在でも復興の進んでいない地区もあり、地域復興の大きな課題となっている。

所感：

津波が破壊したものは建造物だけではなく、地域社会や住民の生活も破壊したが、いまだ震災前に戻っていない。まだ多くの時間と労力をかけていかなければならないと感じました。碧南市においても津波被害が想定されているが、実際の避難計画のみならず、発災してからの住民対応や、心のケアなどのソフト面の整備もしていくことが望まれます。

## 会派視察研修報告書

令和元年 7月30日

議員氏名 山中 謙治 印

視察（研修）に参加したので、下記のとおり成果を報告します。

### 記

- 1 期間 令和元年 7月14日（日）～令和元年 7月 16日（火）
- 2 視察先 宮城県仙台市、塩竈市、女川町、石巻市
- 3 視察の種類 会派視察研修
- 4 視察の成果等

#### ●7月14日 宮城県美術館収蔵庫について

##### ・宮城県立美術館の概要

宮城県美術館本館は1981年11月3日開館し、また、1990年6月1日に佐藤忠良記念館が開館した。

年間来場者は平成30年度、常設展・企画展を合わせて約13万8千人である。

収蔵品数は2019年3月末現在で、作品数5,279点、作品点数7,285点を収蔵している。

##### ・「見える収蔵庫」の誕生の経緯

宮城県立美術館は開館から35年が経過し、施設や設備の老朽化が著しく進んでいるとして、2024年度のリニューアルオープンを目指して「宮城県美術館リニューアル基本構想」を策定。

宮城県教育委員会は同館のコンセプトや施設イメージの中間案を明らかにし、バックヤードの収蔵品も見えるようにする「ヴィジブル・ストレージ（見える収蔵庫）」導入を検討しており、日本国内では珍しいケースである。

収蔵作品数や広さなど具体的な仕様は未定であるが、宮城県美術館が展示する作品数は収蔵物全体の10%未満で、スペースの有効活用と、より多くの作品を可能にすることが目的とのことである。

#### ●所見

碧南市の藤井達吉美術館の収蔵庫・作業スペースに比べて明らかに余裕があるが、良い多くの作品閲覧ができるように検討している。

碧南市も収蔵庫の増設計画があり、より多くの収蔵品を展示及び閲覧ができるよう検討して頂きたい。



● 7月15日 塩竈観光物産協会の取り組みについて

塩竈市は多賀城に国府が置かれて以来、海の玄関口として発展し、近世以降は塩竈神社の門前町として繁栄を続けてきた。

しかし、近年人口の減少が見られ、人口減少を抑えるため産業振興と共に観光事業に力を入れている。

塩竈市観光物産協会案内所は本塩釜駅構内にあり、観光と物産販売のPRをしている。

・各種パンフレットの配布

老舗マップ、塩がまっぷ、中卸マップ、塩竈寿司めぐりなど市内観光・物産・グルメを紹介している。

・イベント・観光の取り組み

1948年港町塩竈の産業復興を願って始められ、広島県厳島神社の管弦祭、神奈川県の高船祭りと共に「日本三大船祭」に数えられている。

2基の神輿をのせた御座船が松島湾内を巡幸し、観光客に対して観光船を出して見学等の企画をしている。

また、前夜祭には花火大会が開催され、陸上・船上から見学できるようになっており、地元のみならず、多くの観光客が訪れている。

● 所見

塩竈市周辺には日本三景の松島や門前町としての老舗、豊富な海産物を活用した観光・物販に力をいれている。

本市においては、祭りは各地区独自の祭礼であり、碧南市全体としての祭りが無い。本市も塩竈市と同じく港まちであり、豊富な海産物・農産物や醸造品も多くあり、元気ッス碧南や衣浦みなと祭り等、単体で開催するのではなく同時開催し、本市全体として観光事業を考えていくべきときが来ているので検討願いたい。

● 7月16日 塩竈市津波防災センターの震災復興取り組みについて

2011年3月11日に発生した「東日本大震災」で甚大な被害に遭い、初期には水や食糧が手に入らず、ライフラインも途絶え、寒さに震えながら一時的な「生命の危機」にさらされた。

塩竈市津波防災センターでは「東日本大震災」発災後の1週間に焦点をあて、その時何が起き、人々が何を求め、状況はどのように変化していったか、を日ごとに記録、展示をして、もう2度と災害で大切なものを失わないために、今できることは何なのかを考えることを目的にしている。

塩竈市は松島湾に多くの島々が点在し、天然の防波堤の役割を果たし、津波による被害は他地区に比べ比較的軽微であったが、液状化、浸水の被害にあった。

以前の地震の経験から、4,000人分の毛布を用意していたが、実際避難されたのは8,000人以上で、毛布が足らず、寒さに耐え睡眠もとれない状況であったのと事である。

現在、塩竈市内では震災の爪痕は見られないが、防潮堤の嵩上げ、避難所の備蓄増など、震災の教訓を生かし対策を行っている。

・震災復興地視察（女川町・石巻市）

女川町は15mもの高さの津波に襲われ、市街地は根こそぎ流された。土地のかさ上げ、公共機関の建設、新しい街づくりも進んできているが復興までにはまだまだ、時間がかかるようであった。

石巻市にある石巻南浜復興祈念公園整備事業現場を視察した。高速道路が津波に対する防波堤の役割を果たしたことから、海岸線沿いの国道は嵩上げされており、津波の対策が取られていた。石巻南浜復興祈念公園は広大な更地があるだけであり、震災から8年経過した現在においても、まだ復興が進んでいなかった。

●所見

津波による被害はすべてのものを破壊し、復興の難しさと痛感した。ハード面の復興は目に見えて感ずることはできるが、住民を含めた社会生活を取り戻すにはさらに多くの時間を要すると思われる。本市においては「東日本大震災」のような津波はないと想定されているが、市内全域が低地であり、大きな被害の可能性がある。本市においても災害対策マニュアルは策定されているが、マニュアル通りにはいかないのが当たり前であり、被災地の対応の記録誌参考に検討すべきと考える。

# 視察研修報告書

令和元年 7月30日

議員氏名 生田 綱夫

視察（研修）に参加したので、下記のとおり成果を報告します。

## 記

- 1 期間 令和元年 7月14日（日）～令和元年 7月16日（火）
- 2 視察先 宮城県仙台市 宮城県美術館  
宮城県塩釜市
- 3 視察の種類 会派視察研修 新政会
- 4 視察の成果等

## 研修内容

7月14日（日） 宮城県美術館

「美術館収蔵庫」について

7月15日（月） 宮城県塩釜市

「塩釜観光物産協会の取り組み」について

7月16日（火）

「塩釜市津波防災センターの震災復興取り組み状況」について

## 研修所感

7月14日（日） 宮城県美術館

「美術館収蔵庫」について

宮城県美術館は昭和56年オープンし隣接施設として碧南市でも彫刻の街づくりで馴染みのある文化会館前に設置してある作者 佐藤忠良氏の記念館が併設してある。

昨年には碧南市藤井達吉美術館の学芸員であった職員が現在この美術館の学芸員として移籍していたので、調整するにも都合が良い施設であった。

現在碧南市で収蔵庫の新築を目指している中でこの美術館が将来的に新しいタイプの収蔵庫を計画中である事を知り、現状の収蔵庫の状況と将来像を確認。

現況の収蔵庫は碧南市の収蔵庫とはケタ違いの広さを持ち、絵画、彫刻、掛け軸、その他とそれぞれ工夫を凝らした施設として、多くの収蔵庫を持っており、整然と整列されて居た事と、地震対策として全ての作品が落ちたり、倒れたりしないような工夫がされていた。

将来構想としては「ヴィジブル・ストレージ（見える収蔵庫）」の導入が謳われており、日本国内では珍しいケースとなる。「ヴィジブル・ストレージ」の導入は17年に策定された基本構想を具体化したもので、収蔵作品数や広さなど具体的な仕様は未定。現在、宮城県美術館が展示する作品数は収蔵物全体の10パーセント未満で、同県生涯学習課によるとスペースの有効活用と、より多くの作品を鑑賞可能にすることが目的だという。

碧南市の新たな収蔵庫も斬新な形として、見える収蔵庫を取り入れても良いと感じられた。

7月15日（月）宮城県塩釜市

「塩釜観光物産協会の取り組み」について

神社と漁協とタイアップした日本三大船祭りの一つで、海の日の本祭では、陸奥国一之宮・志波彦神社鹽竈神社の御神輿を「御座船（日本唯一の祭り専用船）龍鳳丸・鳳凰丸」に乗せ、吹き流しやのぼりをなびかせた約100隻の供奉船を伴い、松島湾内を5時間にわたって巡幸します。海の祭りならではの勇壮な姿は観客を圧倒します。市内中心部では陸上パレードが華やかに開催されるほか、前日には花火大会も開催されます。

平成26年に「ふるさとイベント大賞」において最高賞の「内閣総理大臣賞」を受賞。

前日の花火大会や当日のパレード、最後の神輿を神社に奉納するための200段の階段を駆け上る様相はクライマックスに相応しい崇高なイベントであり、集客の数も相当であります。

寿司屋さんの数も人口比で日本一といわれ、マグロの漁獲量も日本有数の町であり、どの寿司屋さんもそれぞれ趣向を取り入れて、飽きさせない工夫がされてました。

この塩釜には碧南市から工場の新規参入としてえびせんべいの会社が入っており雇用も現地採用とし当市との関わりをより強くしている事も挙げられます。

当市に於いても、日本3大とか言われる様なメインイベントを行う事により、来碧される人数の増加を狙う事も必要かと思われまます。

7月16日（火）

「塩釜市津波防災センターの震災復興取り組み状況」について

1  
塩竈市津波防災センターでは「東日本大震災」発災後の1週間に焦点をあて、そのとき何が起き、人々が何を求め、状況はどのように変化していったのか、を発生から7日間を中心に記録、展示してありました。

この展示は、当時の状況を振り返ることを通して次の災害に備えることが目的であり、もう2度と災害で大切なものを失わないために、今できることは何なのかを考えさせられる事ができました。

東日本大震災発災後から約1時間後の15時49分、海上保安庁の巡視船まつしま（震災当時）が福島県沖で10mの大波を乗り越える映像の上映と、実際に船で使われていた羅針盤機器の展示があり、生の声と、実際の映像により現場の非常事態の状況がはっきりわかる映像でした。

午後からは、近隣の女川や石巻へ出向き復興の状況を確認

復興状況は完全な状況では無いところもあり、今後まだまだ完全な状況になるのは先の様にかんじました。

当市に於いても、今後いつ何時同じような状況になる可能性があるため、必要以上に対策をする必要性も感じ視察を終了しました。

## 会派視察研修報告書

令和元年 8月 20日

議員氏名 鈴木清貴

視察（研修）に参加したので、下記のとおり成果を報告します。

### 記

- 1 期間 令和元年 7月14日（日）～令和元年 7月16日（火）
- 2 視察先 宮城県仙台市  
宮城県塩竈市
- 3 視察の種類 会派行政視察
- 4 視察の成果等

宮城県仙台市

研修項目：宮城県立美術館収蔵庫について

元碧南市藤井達吉現代美術館学芸員土生和彦氏の案内により美術品収蔵庫と周辺施設を視察した。

築38年（昭和56年11月開館）を経過、年間予算約4億6千万円。

美術品収集状況（平成31年3月末現在）5,279作品、7,285点

美術品取得基金（平成31年3月末現在）21億2,900万円余

課題：経年劣化に伴う施設機能の低下と、時代変化による展示条件の高まりや環境等への配慮など社会的要請との乖離が顕在化しつつある。

碧南市藤井達吉現代美術館収蔵庫増設について、見せる展示型収蔵庫の方向性を確認したかったが、宮城県立美術館は収蔵庫としては収蔵作品種類毎に4室あり広々として作業効率の良さを含め碧南との差を感じたが、一般来館者の見学コースにはなっておらず、勿体ない気がした。

藤井達吉美術館においては是非展示型収蔵庫となるよう具申したい。

## 宮城県塩竈市

### 研修項目：①塩釜観光物産協会の取り組みについて

日本有数の生鮮マグロの水揚げ漁港を持つ塩竈市は三陸沖の生鮮魚介類を使った日本一の寿司の町を目指して取り組んで見えました。

また、7月15日の海の日に開催される鹽竈神社祭礼は、前夜祭の花火大会、当日の陸上パレードの開催などを県内外にPRするため英語版を始め4ヶ国語のHPやタウンマップを作成して観光客の誘致に官民一体となって取り組んで見えました。

人口約55,000人と碧南市より小さい市でありながらコンパクトな町でまとまりがあり、活気のある様子が感じられました。

碧南市においても様々の手段を活用しての情報発信をお願いしたい。

### ②塩竈市津波防災センターの震災復興取り組みについて

塩竈市津波防災センターは2011.3.11東日本大震災発災後の1週間に焦点を当て、そのとき何が起き、人々が何を求め、状況はどのように変化していったのか、を日ごとに記録、展示しています。当時の状況を振り返ることを通して次の災害に備えることが目的。

立地は塩釜港防潮堤すぐ脇に建ち、展示場と研修室と備蓄倉庫を兼ね、来街者の避難所としての機能を有しています。

塩竈市は松島の諸島が防波堤となったが、本塩釜駅付近でも2m超の浸水が建物に記録されている。町の復興は急ピッチで進んでおり、碧南市からもスギ製菓が進出して一助を担って見えた。鹽竈神社の祭事を中心に様々のイベントを官民一体となって取り組んで見え、復興の旗頭になっていると感じた。

市民の心を一つにして前に進んでいく力は、やはり古くからの地区の神社仏閣を中心とした団結力であるように感じる。

以上を持って研修を終了した。

## 視察研修成果報告書

令和元年 8月20日

議員氏名 杉浦哲也

視察（研修）に参加したので、下記のとおり成果を報告します。

### 記

- 1 期間 令和元年 7月14日（日）～ 令和元年 7月16日（火）
- 2 視察先 宮城県仙台市・塩釜市
- 3 視察の種類 会派視察研修
- 4 視察の成果等

#### \*仙台市（7月14日）

仙台市では、宮城県美術館の運営及び収蔵庫の見学等の研修をしてきました。

宮城県美術館は、美術の観賞、創作、研究等を通じて、県民が美術文化活動に積極的に参加できるよう、多角的な機能を持つ総合美術センターの役割を果たす施設として、昭和56年に35億4千万円の建設費を投じて設置された。

平成30年度の来館者数は、35,586人で、コレクション数は、5,279作品となっている。

#### ★運営の基本方針

美術館としての充実した調査研究活動を踏まえ以下の方針を掲げ、年間運営費約4億6千万円の費用で運営されている。

1. 優れた美術作品を収集、展示して、広く県民に観賞の機会を提供する。
2. 県民の積極的参加による創作活動の推進を図る。
3. 美術に関する様々な体験交流の場となるよう、活発な普及を行う。
4. 美術に関する他の領域と連携して、文化的諸活動を行う。

#### ★美術作品等の収集・保存方針

1. 宮城県及び東北地方にゆかりのある作家の優れた美術作品、国内外の優れた美術作品を収集し、体系的な常設展示ができるよう配慮する。
2. 美術作品の収集対象は、近・現代の絵画、彫刻、工芸等とする。
3. 資料価値のある美術作品、模写、文献、図表、写真、フィルム、レコード、テープ等の資料を収集、保存し、調査研究に資するとともに、展示、教育普及活動等に活用する。

#### ★「見える収蔵庫」について

開館から35年が経過し、施設の老朽化が著しく、2024年度のリニューアルオープンを目指し基本構想を策定する中で、バックヤードの収蔵品も鑑賞できるよう「見える収蔵庫」の導入を検討している。



＊塩竈市（7月15日）

★塩竈観光物産協会の取組みについて

塩竈市は古くから海の玄関口として発展するとともに、塩竈神社の門前町として繁栄をしてきたが、近年人口の減少が著しく、この課題を何とかするための対策として、産業振興と観光事業を重点施策として次のような取組みをしている。

1. 本塩釜駅構内に塩竈市観光物産協会案内所が設置されており、観光と物産販売のPRを積極的に行っている。
2. 老舗マップ、塩がまっぷ、仲卸マップの配布、塩竈寿司めぐりなどの市内観光・物産・グルメを市内外の様々なイベント等の場で紹介している。
3. 夏の風物詩として、多くの来場者を迎えて開催される、日本三大船祭りの一つ「鹽竈神社みなと祭り」に補助金を支出し、地元への経済効果を生み出している。

＊塩竈市・石巻市・女川町（7月16日）

★塩竈市津波防災センターの震災復興の取組みについて

塩竈市津波防災センターでは、「東日本大震災」の発災後7日間に何が起きて、何が課題であったのか、住民生活に何が支障をきたしていたのか、町の姿がどうであったのか、その推移を時系列にし、その日ごとの映像や写真、避難所の状況などを記録に残し、パネルで展示をしている。また、このセンターが一時避難場所となっており、2階には、毛布や水・食料、防災グッズ等が備蓄されている。

現在の塩竈市内に震災の爪痕はほとんどないが、防潮堤の嵩上げや避難所の備蓄品を増やす等、大震災の教訓を活かし様々な対策を講じている。

★震災復興地の現地視察

石巻市では、高速道路が津波に対する防波堤の役割を果たしたことから、海岸線沿いの国道が嵩上げされており、津波対策としての工事がなされていたが、国の事業で進められている「石巻南浜復興記念公園」の整備状況は、震災から8年経過した今でもあまり進んでいなかった。そして、まだまだ大震災の爪痕が各所で残っていた。女川町は15mもの高さの津波に襲われ甚大な被害を受けた場所で、公共施設や公共交通機関の施設等の建設は進み、一部新しい街並みが整備されていたが、住民の高台への移転や山を切り崩しての新たな街づくりには、まだまだ時間がかかりそうです。

## 視察研修成果報告書

令和元年 7 月 30 日

議員氏名 鈴木良和 印

視察（研修）に参加したので、下記のとおり成果を報告します。

### 記

- 1 期間 令和元年 7 月 14 日－16 日
- 2 視察先 宮城県仙台市・塩釜市・女川町
- 3 視察の種類 会派視察研修(新政会)
- 4 視察の成果等

#### (1) 7 月 14 日 仙台市「美術館の収蔵庫について」

宮城県美術館について

開館は 1981 年 11 月 3 日、コレクション数は 5400 点、年間来館者数は約 16 万人、年間運営費は 6.6 億円(H29 決算)

「見える収蔵庫」誕生の経緯について

1981 年に開館した美術館が 2024 年度のリニューアル・オープンに向けた館のコンセプトや施設イメージの中間案をまとめた。

美術館の新しい一歩を考える一の中でバックヤードの収蔵品も見えるようにする「ヴィジブル・ストレージ(見える収蔵庫)の導入が行われており日本国内では珍しいケース。

「ヴィジブル・ストレージ」に関しては国外でもオランダのボイマンス・ヴァン・ベーニンゲン美術館が収蔵庫すべてを来館者が閲覧できる新棟を建設中。展示スペースと収蔵品数のバランスに悩む美術館のソリューションとして今後ますます注目を集めそう。

収蔵庫の概要及び整備工事費について

令和 5 年度リニューアルオープン予定

概算事業費 約 50～60 億円見込む

碧南市の美術館収蔵庫増築計画もあり、決められた予算の中で内容の濃い最大限の収蔵庫を建設していただきたいと希望する。

#### (2) 7 月 15 日 塩釜市観光物産協会の取り組みについて

ア、外国語での案内など情報発信の強化策について

多言語パンフレットを新たに作成し、来訪した外国人観光客の利便性を高め市内を回遊できるよう受け入れ態勢を整える。またキャッシュレス決済「釜コイン」

の利用促進を図り、誘客と地域通貨の還元拡大に取り組む。

イ、観光物産協会案内所について

市内観光案内・観光パンフレットの配布、塩釜市物産品の販売・紹介や周辺でおすすめのグルメ紹介(写真・料金付)また訪問者の特徴(年齢層・男女比・訪問人数・滞在時間等)を調査している。

ウ、塩釜のゆるキャラについて

11体のゆるキャラたちが塩釜市をPRしている

エ、駐車場確保について

駐車場がない点が挙げられる。公共的な交通機関から拠点に向けたパブリックアクセス整備は必要。

碧南市においては2026年のアジア大会・ビーチバレー大会の競技候補地になっており、世界中から選手及び関係者が来碧します。そのために多言語パンフレットの作成、キャスレス決済の利用促進を図っていくべきと考えます。また外国語の案内人の育成が必要と考えます。

(3) 7月16日 震災復興の取り組みについて

ア、塩釜市内の災害復旧の状況について

塩釜市が体験した東日本大震災から得た反省や教訓と復旧・復興に向け歩んできた年月を記録した、「塩釜市東日本大震災復旧・復興の記録明日へ」を作成し、防災・減災への意識と備えの大切さを、後世に語り継ぐことを目的としてまとめた。

イ、復旧工事発注について

平成31年度公共工事発注工事見通しは68か所。

ウ、今後の災害復旧のスケジュールやこれまでの取り組み今後の取り組みについて

宮城県は平成23年度から平成32年度までの10年間で復興を達成するとの目標を定め、この10年間における復興の道筋を示す「宮城県震災復興計画」を作成した。

現地視察 塩釜市津波防災センターと女川町の被災地

「東日本大震災」発生後の1週間後に焦点をあて、その時何が起き、人々が何を求め、状況はどのように変化していったのかを日ごとに記録、展示している。当時の状況を振り返ることを通じて次の災害に備えることが「あの日から7日間の記録」の目的。女川町は海岸から内陸にかけて山に囲まれた窪地になっているため津波は山肌を這うようにして20mもの高さにせりあがった。他の被災地と比べても巨大な規模だった。中心市街地は根こそぎ流され駅舎も破壊された。死者・

行方不明者は827人を数えた。本市においても将来くる南海トラフ地震に対し、  
できるだけの準備が必要であると考え。また市民と自治体の合同的な訓練も推  
進されていかれるよう希望します。

最後に3日間にわたる関係各位感謝を申し上げ、視察報告といたします。